



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2015/03/09(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 167

## 第27回北海道高等学校バスケットボール新人大会

(2月12日～14日、旭川市)

男子は札幌工業が初優勝を飾る！ 2位の札幌日大は3年ぶりの決勝進出、

3位の旭川工業は15年ぶりベスト4

4位の駒沢大学附属苫小牧は3年連続ベスト4入りを果たす。

北海道バスケットボール協会強化委員会  
指導者育成専門委員会 川村 健二

例年になく雪の少ない旭川で4年ぶりに開催されたこの大会、男子においては札幌工業が札幌地区予選1位の実力どおり、今回は無難に優勝を果たして幕を閉じた。

札幌工業のスタートメンバーの平均身長は179cm(札幌日大は183cm)と決して高くはないが、個人技の上手さと抜群のシュート力を武器に順当に勝ち上がり、そのまま初の優勝を果たした。

決勝の札幌日大戦は札幌予選と同じカードとなったが、キャプテン#4鈴木、#5濱尾、#6菅原を軸に、冷静果敢に試合を進め、第3Q、7分過ぎにプレスに転じて逆転、そのまま逃げ切った。

特に#5濱尾は総得点74点のうち約半分の35点を挙げる活躍(内3Pは4本、速攻にも絡み、自らのドライブイン等の得点)で上手さ・強さを発揮し最優秀選手に選ばれた。また苦しい場面でのここぞという時に、冷静にシュートを決め、さすがキャプテンと感じさせた#4鈴木は、第2・第3Qだけで16点を挙げ、優秀選手に選ばれている。

札幌工業の横嶋暢貴監督は、赴任後6年目にして新人戦本大会2度の決勝進出、そして今回の3度目は優勝を成し遂げた。また前任校の恵庭南でも、強豪チームに育て上げており、道内の優れた指導者の一人として戦歴を築き上げてきた人物である。

現在は日本バスケットボール協会エンデバー委員会の北海道チーフコーチも務めおり、その立場もあって、『このチームが優勝して良いのか、と思っている。このレベルではまだ全国で勝てないし、ますます遅れを取ってしまうのでは・・・』と、強い懸念を抱いている様子であった。更には、若い指導者がもっと出てきて頑張りたい、というのが偽らざる気持ちであろう。

準優勝の札幌日大は、全道中学オールスターと思しき1年生を中心に強化を試みているチームで、試合毎に上手く遅くなっていった感が有る。決勝の最後はボール運びに脆さが出たが、6月の高体連までに皮剥ければ更に脅威の存在になろう。1年#11齋藤が敢闘賞を得ている。

3位の旭川工業は、シードの室蘭地区海星を破り、久方ぶりのベスト4に進出、準決勝では札工に完敗したものの、3位決定戦では駒沢苫小牧を何とか振り切って辛勝。2年#4平川が優秀選手賞を得ている。未だ現役として指揮をとっている前野監督は、旭川地区協会の会長をも務めており八面六臂の行動・活躍ぶり。ベンチでは老将の名に相応しく、地元開催でシード権・3位入賞を果たし、まだまだとは言いつつも面目を保ったことは流石というほかはない。

4位の駒沢大付属苫小牧は第2シードで、白樺学園を予想以上の大差で破り、3年連続ベスト4に進出、準決・3決と札日大・旭川工業に競り負けたが、しっかりとチームを育てている存在感を示していた。惜しむらくは、札幌日大戦での最後、攻めないままシュートを連発し墓穴を掘ってしまった感があるが、そのチームの特徴をどう作り直してくるか興味深い。大黒柱#4山田が優秀選手に選ばれている。

今大会中ベスト4以外の注目されたチームとして、まず25・26年と2年連続優勝した東海大第四は、怪我人も有り札日大に敗れたものの、虎視眈眈と次を狙ってくるであろう。更にチーム力として海星、札幌南、白樺、楽しみな選手がいる函大有斗や根室等の雪辱を期待したい。

また指導者の年齢を見ると、優勝監督の横嶋監督は早50歳代、準優勝の札幌日大の長野監督、3位の旭川工業の前野監督は既に還暦を過ぎて数年が経過している。経験がものをいとはいえ、これからの北海道の先頭に立つ指導者としては、40歳代を筆頭に30歳代指導者の奮起を大いに期待したいところである。

最後に、準備も含め4日間の大会運営に関し、旭川地区協会役員の方々及びオフィシャルや駐車場での車誘導等、各校バスケットボール部員の仕事ぶりに感心しつつ、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。